



2016・10・21

第 253 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 戦争法発動としての南スーダン派兵許すな

### 改憲「反対」が「賛成」上まわる

この間に実施された一連の世論調査で憲法を変えることに「反対」が「賛成」を上まわっています。(カッコ内は調査月)

\*NHK(10月)…反対 31% 賛成 28%

\*読売(3月)…反対 50% 賛成 49%

\*朝日(5月)…反対 55% 賛成 37%

\*産経(6月)…反対 46% 賛成 43%

1980年代から改憲の是非を問う世論調査を系統的におこなっている「読売」によると、2004年には改憲賛成が65%、反対が23%とその差が最大に開きました。しかしこの年に九条の会が発足、急速に草の根にその組織を広げていくとその差は縮まりはじめ、今年は「読売」を含め逆転しました。

この間の戦争法反対の運動や自民党改憲案の学習運動が効果を発揮しつあるといえるのではないのでしょうか。

### 30日の青森集会に向けて

**【青森県・青森県九条の会】** 青森県九条の会は10月12日、青森市新町で戦争法廃止を求める街頭署名宣伝を行い、駆け付け警護など危険を伴う新任務付与を批判し、南スーダンPKO派兵阻止と南スーダンか

らの自衛隊撤退を訴えました。

宣伝には、九条の会メンバーをはじめ、戦争法廃止を求め共同する憲法ネットあおもりなど22人が参加。今月30日に青森市で開催される「自衛隊を南スーダンに送るな！いのちを守れ青森集会」の告知チラシを配りながら、「青森の自衛隊、青年を戦場に送らせない署名です」「憲法守れ！命を守れと一緒に声をあげましょう」と市民へ協力を呼びかけました。

街頭では「青森の自衛隊が派遣されるのを初めて知った。これじゃあ戦争しないと決めた憲法に違反しているじゃないですか。市民の力で阻止しないとイケませんね」(40代・女性)、「私たち夫婦は子や孫を戦場に送らせない。この決意を持っています。がんばりましょう」(60代・夫婦)など、署名に協力した市民から派兵阻止を求める連帯の声が多く寄せられました。

署名に応じた三上真史さん(38)は「憲法を踏みにじる安倍政権は許せない。安本法は廃止しかありません」と語りました。

### 自衛隊員らが住む地域で集会・デモ

**【東京都練馬区・ねりま9条の会】** 10

月9日、東京都板橋区で「自衛隊員の命を守れ！ 南スーダンに行かせない！ 戦争法の廃止を！」と求める集会とデモが開催されました。ねりま9条の会の呼びかけに応え、北町・田柄・春日町・平和台の各9条の会が主催団体となりました。「許さない！ 戦争法オール板橋行動」との協力が大きな力になりました。

陸自の練馬・朝霞の各駐屯地などに所属する自衛隊員やその家族が住む地域で集会デモを行うのは初の試み。当日は土砂降りの雨にもかかわらず、約150人が集まりました。

元自衛官の井筒高雄氏、アニメーション映画監督の高畑勲氏らがあいさつ。井筒氏は「南スーダンから日本大使館の職員などは大半が引きあげている。稲田（朋美）防衛相は南スーダンは安全だとして自衛隊派遣を継続させようとしているが、とんでもない」と怒りを込めました。

参加者は商店街をドラムのリズムやラップ調のコールでデモ行進。通行人は「同じ町内に住む自衛隊員が派遣される。黙ってはいられない」と書かれたビラを受け取りました。

「ねりま9条の会」事務局の大柳武彦さん（72）は『安倍政権の暴走を許してはならない』の心が形になった。9条の会の底力がついてきたと感じる」と話しました。

### 南スーダン派兵反対訴え署名

**【岩手県・平和憲法・9条をまもる岩手の会】** 9条をまもる岩手の会は10月7日、盛岡市で宣伝し、「憲法を守り、平和原則を日本と世界のために生かす」署名への協力

を呼びかけました。

参加者らは、11月に南スーダンへ派兵される自衛隊が武器を使用すれば、「殺し、殺される」事態が現実のものになると報告。戦争法発動反対の声を上げようと訴えました。

40分間で34人が署名。61歳の女性は「戦争状態の南スーダンへの派遣はやめるべきだ」と話し、84歳の女性は「自衛隊が武器を使うのはダメだ。骨折で指が痛い、署名した。がんばって」と激励しました。

39歳の女性=学校講師=は「二度と戦争はしないと誓った憲法を変える必要はない」と語気を強めました。

### 憲法の上に国家おく安倍政権許さない

**【岐阜市長良・長良九条の会】** 10月1日、長良九条の会が10周年企画「憲法カフェ」を開き、50人が参加しました。

会代表の津田正夫さんは「沖縄と本土とのメディアの格差が大きい。メディアはどうあるべきか憲法的視点から考えてほしい」とあいさつしました。

「明日の自由を守る若手弁護士の会（あすわか）」の種田和敏弁護士（34）が、「王様をしぼる法」という紙芝居をプロジェクターで紹介。「憲法にしぼられているのは、政治をする人であって、政治家をしぼるのは国民だ」と説明し、自民党改憲草案では102条1項に「国民」の文字があり、明らかに国民をしぼる改憲草案だと批判しました。

講演を受けて、1グループ5～6人（8組）に分かれて討論。戦争法や9条、選挙などが話し合われました。

種田氏は「憲法の上に国家を置く、安倍

政権を倒す道は選挙だ。気合を入れ直して一歩一歩前に進もう。憲法を少しでも知ってもらえるように身近なところから語りかけていこう」と強調しました。

70代の女性は「自民党改憲草案の怖さがよく理解できた。間違っていることを伝えていきたい」と語りました。

### 子どもが楽しく機嫌よく育つために

**【大阪府富田林市】** 富田林市内の「九条の会」の交流集会在10月4日に開かれ、95人が参加しました。

記念講演では、「憲法への私の思い」と題して落語家の笑福亭竹林さんが「どんどんイヤな方向に行くようですが、ぼんやりしてたらとんでもないことになりますよ」と切り出し、「子どもと子育てが原点」と体験やエピソードで笑わせながら熱弁をふるいました。そして、「子どもたちが楽しく機嫌よく育つためには、生活の安定と格差のない社会が必要。何よりも平和が最大の条件、世界に宣言した憲法9条をご一緒に守りましょう」と呼びかけました。

### 報道を批判的に見る重要性

**【金沢市寺町台・寺町台九条の会】** 寺町台九条の会はこのほど、須藤春夫法政大学名誉教授を招いて「信じていいのか、テレビ、新聞の報道」と題する学習会を行い、約50人が参加しました。

須藤氏は、「安倍首相は戦争する国にしたいとの強い思いがあり、メディアを変えたいと考えている。報道をうのみにしないで、たくさん新聞やテレビを見比べ、たくさんの人と意見を交わすことで、ダメなもの

はダメと判断していくことが大切だ」と語りました。

初めての参加者が多く、「今まで、こうした視点で考えたことがなかったので、大変勉強になった」(30代、女性)、「福島原発の様子が報道されず、不思議に思っていたが、よくわかった」(50代、男性)、「おかしい、おかしいと思っていたがNHKの報道でいつの間にか、私たちの頭まで変えられていたのやね」(70代、女性)などの感想が寄せられました。

### 直木賞作家が9条への思い

**【仙台市太白区・九条の会】** 「憲法九条を世界に・太白区のつどい」が10月8日、仙台市で開かれました。参加した80人の市民が、仙台市在住で、直木賞作家の熊谷達也氏の講演に耳を傾けました。

主催した太白区内の10の「九条の会」でつくる実行委員会を代表して松浦真氏は、南スーダンへの自衛隊派遣に触れ、「いま九条の会は正念場に立たされている。自衛隊員が戦闘に巻き込まれないようしっかり行動しよう」と呼びかけました。

熊谷氏は、自分が描く物語の背景に戦争が深くかかわっていることを感じ「戦後生まれの自分として、伝えられるものがあるのではと書き始めた」と話しました。特攻隊や仙台空襲を題材にした自らの小説について語り、戦争に向き合う中で憲法九条をじっくり読んだことを紹介。戦前、民衆が閉塞(へいそく)感を打ち破ろうと、自ら戦争に突き進んだことに触れ、「若い人に、雰囲気は流されず、しっかり自分で考えてほしい」と語りました。

## 緊急事態条項の危険学ぶ

【和歌山県・憲法9条を守るわかやま県民の会】 憲法9条を守るわかやま県民の会は10月6日、運営委員会総会記念講演会「自民党の憲法改正草案批判ー『緊急事態条項』を中心に」を和歌山市で開きました。

講演した金原徹雄弁護士は、日本会議などが全国で開催している女性をターゲットにした改憲イベント「憲法おしゃべりカフェ」を和歌山市でも開き、大規模災害を例に緊急事態条項が必要だなどと豪華なパンフレットも使い宣伝していることを紹介。「緊急事態条項が、戦争のために必要だとはけっして言わない。災害の時にあれもできないこれもできないから必要、というのが災害対策基本法を読めばすでにある。ウソも100回言えば本当になる方式だ」と批判しました。また緊急事態条項について、日本が戦争するためにはどうしても必要であり、内閣にオールマイティの独裁権を与えると糾弾。危険な策動を打ち破るため「今後は運動と学習が力を発揮していかなければいけない。運動と学習は車の両輪だ」と訴えました。

## ねばり強く定例の宣伝

【徳島県・九条の会徳島】 九条の会徳島は10月9日昼、戦争法廃止、憲法9条を守ろうとスタンディング宣伝を徳島市内で行い、11人が参加しました。

徳島駅前元町交差点の4ヵ所に立ち、「許すな集団的自衛権行使容認、守ろう憲法9条」の横断幕、「I♡憲法」のプラカードを掲げてアピールしました。

参加した徳島市の山本千代子さん（67）は「安倍首相は、自民党改憲案をベースに議論をすすめると言うが、国会質問で中身を問われても答えず、『憲法審査会で議論する』と言うばかり。国民に隠して9条改悪を狙っているのは許せない」と語りました。

【広島県・女性9条の会ひろしま】 女性9条の会ひろしまは9日、広島市中区で憲法9条を守りましょう」と宣伝しました。毎月9日に実施しているもので、今回は「南スーダン派兵やめよ海外での武力行使は違憲」の横断幕を掲げて宣伝。12人が参加して今年15日の結成10周年記念集会の案内ビラを配り、リレートークしました。

## 6年間続け 7000人署名達成

【仙台市宮城野区・仙台駅東9条の会】 仙台市宮城野区の仙台駅東9条の会が「輝け！ 憲法9条 守る 平和を！」と掲げて行ってきた憲法9条を守る署名が、9月で7000人を達成しました。

同会は2008年の結成以来、みやぎ生協榴岡（つつじがおか）店前で毎月、署名活動を行ってきました。さらに地域の医院などに署名用紙を置かせてもらっています。

参院選以降、「安倍政権怖いですね」「9条は変えてはだめですよ」「家族に自衛隊の幹部がいます。みな苦しんでいます」などの声が相次ぎ、それまでの2倍から3倍の署名が寄せられるようになりました。

署名用紙を置いている医院の院長は、署名用紙の横に自筆で「署名のお願い」の文をそえ、患者に署名をすすめるなど協力してくれています。